

## ～想いをつなぐ結いメディア～【後編】

ウガミンショ～ラ！（こんにちは／島の方言）

私はいつも飛行機に乗る際は、窓側の席を好んで座っています。離陸・着陸時は窓の外を眺め、改めて“自然豊かな美しい島だなあ。この島の中で、人々が往来し、想いを通わせているんだなあ”と、その営みに胸が熱くなります。

人は高い視座から俯瞰すると、普段とはまた違う感情や感覚が芽生えるものですよ。目の前のことだけではなく、客観的に認識することで、時間や場や関係性を一元的に捉えることができるからなのでしょう？

私の島興し活動の中で、島人(シマツチュ)としてのアイデンティティがテーマとなってから、視野の気付きを多々得ることができました。

気付きの成長と共に大きく3つの役割段階があると捉えることができました。

- ・相手に対し、「伝えたい」を考える主観
- ・相手の立場を踏まえ、「伝える」を考える客観
- ・相手へ「伝わる」を考える客観的な主観

その各立場を例えると、主観＝選手＝職人＝歌手＝子、客観＝キャプテン＝現場監督＝バンドリーダー＝親、客観的な主観＝監督＝設計者＝プロデューサー＝先祖といったところでしょうか。

「客観的な主観」客観的に考える自分を俯瞰してみる。経験はないですが、幽体離脱のような感じなのでしょう？(笑)

島の自然や文化を守り繋いできた古の先人たちは、いつの世も次の時代を見据え、情報が乏しい中、高所と言えば山頂しか思い浮かびませんが、経験だけを頼りに暮らしたり地域をどう俯瞰し、未来を望むことができていたのでしょうか？

先日、奄美大島にて奄美環境文化祭「唄島ふえすていばるつち。」というイベントを開催しました。その中で奄美の世界自然遺産登録に向けて、奄美大島出身のシマ唄の唄者・アーティストによって唄島プロジェクト「懐かしい未来へ」という楽曲を制作しました。

タイトル「懐かしい未来へ」は、先人たちの想いをそのままに、ある時は型を変え、その歩みの循環と発展のうねり、その螺旋(らせん)を経て時代を超えて共感点に辿りつくこと、それが「未来へつなぐ」という想いでつけました。

「私のための島 or 島のための私」人々の生き方は自由ですが、先人たちが居ての私、次世代へと「何か」を繋いで行きたいものです。それが結果アイデンティティということなのかもしれませんね。

当初、島興しを始めた頃、私が島のモノゴトへ拘ることに、周りから視野が狭いと「井の中の蛙」とよく告げられたものです。実は私のビジョンは、「井の中の蛙の賑やかさを醸し、日本中・世界中から眺めて頂きたい。」ということを目指しています。

みなさんは、窓の外へ、未来へ、何を望んでいますか？

## 麓 憲吾(ふもと けんご)

1971年、奄美市名瀬生まれ。次世代に「地元で生まれ育ったことに自信と誇りを持ってもらいたい」と奄美大島で活動中。ライブハウス兼レストランバー「ROAD HOUSE ASIVU」の経営、イベントの企画・制作、コミュニティFM「あまみエフエム ディ!ウェイヴ」の運営など、島の空気を通じた活動に情熱を注いでいる。



## ～表紙クイズの答え～

正解は…DHC8-Q400

通称、Q400(きゅーよんひやく)という名前の飛行機です。カナダ生まれで、JACでは2003年に国産旅客機YS-11の後継機として日本で初めて導入されました。ターボプロップ機でありながらも、ジェット機に匹敵するスピードで、地域の翼として活躍してきました。2018年11月を最後に、引退することが決まっています。

引退後もこの冬はまだ鹿児島で羽を休めていますので、ぜひ鹿児島空港へ遊びに来てくださいね！

## ありがとう。Q400

Q400のいろいろな表情をご紹介します。

### 私をCAにしてくれた飛行機

私のQ400との出会いは入社試験を受けるために大阪に行くときでした。可愛い機体のサイズやボーディングブリッジを使わないこと、静かな機内に驚き、合格したらCREW(クルー)として乗務できるのかとワクワクしたことを思い出します。

念願叶ってJACへ入社し、最初に訓練した機材もQ400でした。高翼機ならではの見晴らしの良さでお客さまとの会話も弾み、自然と南西諸島の島々の名前も分かるようになってきました。多くの経験をさせてくれたQ400は、私を客室乗務員にしてくれた飛行機だと思っています。思い入れのあるQ400にもう乗務出来ないのかと思うと寂しいですが、感謝の気持ちで最後を見送りたいと思います。



(客室乗務員 川田 志穂)

### パワフルで頼もしい飛行機！

先代のYS-11からQ400へ移行して最初に感じたのは、YS-11同様に短い滑走路での離着陸が可能なのに、ジェット機並みの速度と物凄い上昇率を発揮出来る力強さでした。離着陸時の横風や追い風・突風に対しても高い性能を発揮し、他社ジェット機が引き返すような強風でも幾度となく就航出来たことは、パイロットとしても非常に誇らしい飛行機でした。離島路線を担いつつ、沢山のパイロットを成長させてくれたQ400に感謝しています。

(Q400機長 酒井 昌輝)

### 手がかかる末っ子はかわいい？！

JACに4機種目の飛行機として入って来たQ400は多くの整備士を鍛えてくれた飛行機でもあります。初めころは機嫌を悪くすることも多く、こつちを直せば、また違う場所が調子が悪くなったりと気がつけば飛行機を直すのに朝までかかる事もしばしば…。でもJAC一丸となって少しずつ色々な工夫や努力してQ400は頼りがいのあるとてもいい飛行機に大変身！Q400を運航している航空会社の中で2015年には定時出発信頼度で世界一になる事もできました。そんな手のかかる末っ子が引退するはさみしいですが、Q400には毎日感謝しながら最後引退する日まで見届けていきたいと思います。

(整備士 宇根 浩一)

### 編集後記

島に降り立つと、いつも不思議な空気感に包まれる。なんともいえない湿気を帯びた、ジワッとした空気とともに、心はふわっとした優しさに包まれ、高く広い空が迎えてくれる。麓さんのコラムを拝読しながら、多くの場所を訪れ、多くの人に逢い、自分自身をみつめ直すとともに、また奄美の空気を感じたくなった。

(ゆいタイム編集員 森原)

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

Vol.8

# JAC NOW

～ゆいタイム～



## クイズ:この飛行機のお名前は何かな？

お手にとってください、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、社員手作りの機内情報誌を発行しており、今回、第8回目の発行となりました。お客さまとつながる“結い”の時間を、そして、地域航空として各地域を“結ぶ”情報をお届けしたいという想いを込めて、ゆいタイムと名付けております。みなさまとのまたとない空の上での今日の出逢いを、ゆい“唯”タイムを通じて、優しく心つながる時間としてお過ごしただけでしたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞお気軽に、客室乗務員までお寄せください。

また、バックナンバー(vol.1～7)をご覧になりたい方も、どうぞお気軽に客室乗務員までお声掛けください。



みなさまへ

JAL グループの我々が常に心の物差しとしている JAL フィロソフィに「最高のボタンタッチ」という項目があります。それには、日々の一便一便のフライトを全社員が心をひとつにしてボタンをつなぎ、次にボタンを受け取る仲間のことを思いやることで「最高のボタンタッチ」を行い、運航を完遂することが記載されております。

先日の北海道胆振東部地震で、寸断された地上交通手段を補完する目的で、JAC から北海道エアシステム (HAC) に SAAB 機を地震翌日から 9/7-12 の間で貸出し、臨時便として北海道民の皆さまにご利用頂きました。

JAC が直接運航していない地域でも、何か協力が出来ないかとのスタッフの強い思いから極めて短期間で HAC に貸し出す諸準備 (HAC 機内仕様への変更等) が実施され、地震翌日早朝には鹿児島空港を丘珠空港に向けて出発し、そして HAC により丘珠＝函館線、釧路線として運航されました。まさに JAC、HAC による「最高のボタンタッチ」で臨時便運航が実現しました。

JAC はこのように地域の皆さまと共に歩む航空会社を目指して参りますので、引き続きご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。



日本エアコミューター株式会社 代表取締役社長 加藤 洋樹

パイロット訓練生と一緒に

なかよし兄弟。ATR72にも会いに来てくださいね！



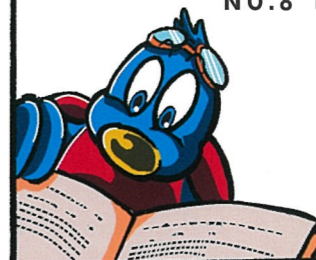
こんにちは。整備管理部で整備技術を担当しています谷口です。今回は、JAC がこの冬運航を開始する ATR72 についてご紹介いたします。ATR72 は、正式名称 ATR 式 72-212A 型といい、私たちが 2017 年春より運航を開始している ATR42(ATR 式 42-500 型)の胴体を 4.5m 延長したモデルで、70 人乗りの機体です。ATR42 同様、機体仕様や使用部品は一部を除いて共通であることから、既に ATR42 での運航経験を持つ私たちにとっては、管理もしやすい兄弟機です。機体はフランスのトゥールーズに位置する Avions de Transport Regional (ATR) 社で製造されており、製造の最終段階においては、現地トゥールーズで、機体購入前に飛行の安全上問題の無い機体であること、また、お客さまにお過ごしいただくための快適性を備えた機体であること等あらゆる項目について書類や実際の飛行による検査で確認したうえで購入のサインを行います。機体購入後、鹿児島へは約 5 日間かけ空輸しますが、この間も、整備士が搭乗、また鹿児島でも各部門のスタッフが万全の支援体制を整え空輸してきます。

私たち社員が一丸となり、自信を持って導入する機体です！皆さまのご搭乗いただける日を楽しみにお待ちしております。



# JAC 空の上の航空教室

NO.8 西郷どん奇美に行く



ルリー 何を真剣に見てるの？

ルリーのご先祖様が西郷さんとお友達だったんだって！

西郷さん？？

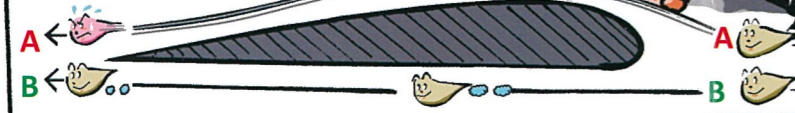
この形を覚えてね！これは一枚の翼の断面だよ！

僕の方がBより走る距離長くない？

そうだね！でもゴールは同じにしないと翼を持ち上げると力は働かないんだ！

速く進まないとならぬよ！

ヤッター！間に合った！



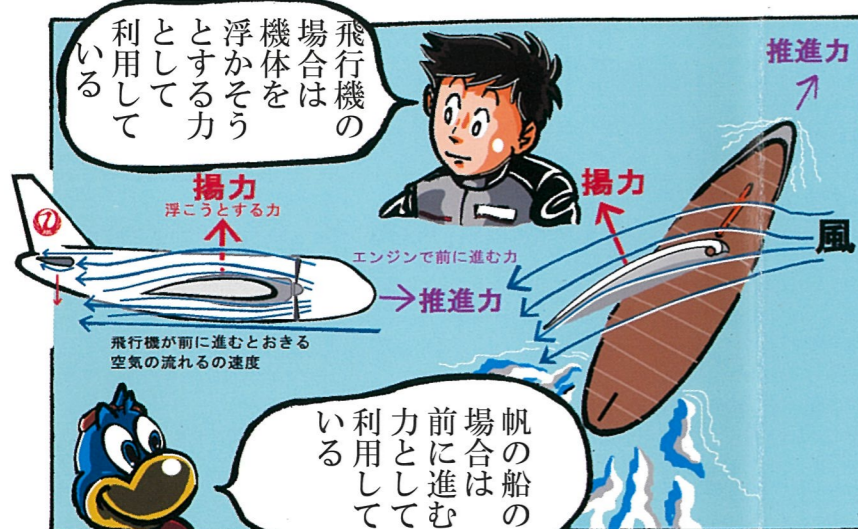
ルリーの先祖様が... ほれ！

西郷隆盛は島流し... 2回島流しに奄美... 1862年6月徳島、8月から沖永良部に約2年間... 船は六反帆船と呼ばれ巾3メートル長さ16メートル乗員は25名だった...

1859年 奄美大島 薩摩鹿兒島から奄美は遠か〜ね！

流れの速い方が圧力が低くなり翼の上に引く力が働くと、その力が揚力として働く！

「揚力」と言うんだね！じゃあそれをヨットの帆と飛行機の翼で考えると...



やあさんは薩摩から来たのかい？

そうでごわす。西郷吉之助ともうしもす。

船で約1ヶ月薩摩からは遠かったであらう！

飛行機の場合、推進力はエンジンで作る！ヨットは推進力に風を利用して天候に大きく左右されるんだ！だから西郷さんも奄美まで約一ヶ月もかかったんだね！

現代では飛行機が開発されたことにより奄美まで約一時間なんだ！

長かったどん船の素晴らしさもよく分かいたもした！

じゃっどんこいからの時代は波にも風にも負けんもつと速か乗りもんが必要でごわす。これからの新しか国が楽しみでごわす！

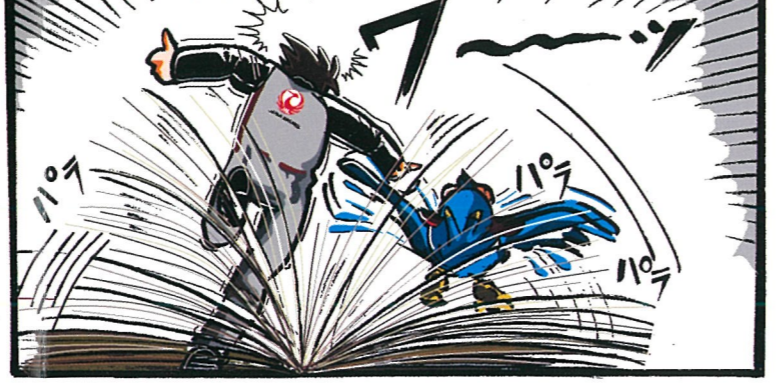
昔はそんなに時間がかかってたんだね！

よかな〜今は奄美まで一日もかからんかな？

本物の西郷さんがしゃべった！

大変だ！行きたい方向に風が吹かないと進めないんだね！

違うよルリー！帆が風で押されて進んでいるのではないんだよ。実は船が前進するのは飛行機が飛ぶ原理は同じなんだ！



友達の奄美のクロちゃんも紹介するぞ！

奄美にちいっとお世話になりもす！